



平成 24 年 8 月 8 日 (水) ~ 10 日 (金)

武蔵野市青少年平和交流派遣団 活動報告書



武蔵野市

武蔵野市非核都市宣言

戦争の惨禍を防止し、恒久平和を実現することは、全人類が切実に念願するところである。

核兵器保有国間で核軍拡競争が激化している今日、とりわけ核戦争を回避し、原水爆の恐れのない世界を確立することは、緊急かつ重大な課題である。

武蔵野市は、平和を希求する世界連邦に関する宣言都市として、人間が人間を滅ぼす危険を防ぎ、人類永遠の平和を樹立するため、非核三原則の完全実施を願い、最大限の努力を傾注するものである。

ここに、われわれは、平和のために貢献する決意を表明するとともに、武蔵野市が非核都市となることを宣言する。

昭和57年3月29日

武蔵野市議会

派遣にあたって

武蔵野市長 邑上 守正



8月に中高生12名による武蔵野市青少年平和交流派遣団とともに、長崎市を訪れ、田上富久長崎市長を表敬訪問し、平和祈念式典に参加しました。

今年、武蔵野市議会が昭和57年に非核都市宣言をしてから30周年にあたります。これを機に、次世代を担う青少年に、被爆の実相に触れるとともに、同世代と意見交換し平和について考えるきっかけとしてもらおうと、この事業を企画しました。

派遣団への応募の際に提出してもらった作文は、戦争を知らない世代ながらも、将来自分たちが担う社会の平和を守っていくために、積極的に何かをしていかなければならないという責任感にあふれたものばかりでした。

団員は、青少年ピースフォーラムへの参加を有意義なものとするため、事前に広島・長崎への原爆の歴史や武蔵野への空襲の実態を学び、また、被爆者の方のお話を伺うなどしてから派遣に臨みました。現地で全国から集まった自治体の青少年と同じ課題に向き合い、問題意識を共有し、将来すべきことを真剣に考えたことは、多感な年代であればこそ非常に有意義なことであったと思います。

市では、昨年、武蔵野が初空襲を受けた11月24日を「武蔵野市平和の日」に制定しました。この日の意味を世代を越えて共有し、戦争の悲惨な歴史を後世に伝え、平和の尊さを武蔵野から発信していきましょう。

平成24年11月

もくじ

- 1 武蔵野市青少年平和交流派遣事業について…………… 1
- 2 武蔵野市青少年平和交流派遣の様子…………… 5
- 3 事前・事後学習について…………… 13
- 4 武蔵野市青少年平和交流派遣を終えて…………… 19

表紙写真解説

- 一段目左 長崎平和会館
- 一段目右 浦上天主堂
- 二段目左 青少年ピースフォーラム開会時
- 二段目右 グラバー園
- 三段目 山王神社の被爆クスノキ

表紙担当：稲垣 葵

裏表紙イラスト：内田 寛之

武蔵野市青少年平和交流派遣事業について



武蔵野市青少年平和交流派遣団の概要

武蔵野市では、昭和 57 年に非核都市宣言を行い、今年 30 周年を迎えました。これを記念して、改めて、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代を担う子供たちに肌で感じてもらうため、武蔵野市在住・在学の中高生 12 名による「武蔵野市青少年平和交流派遣団」を、長崎市へ派遣しました。また中高生をサポートするために、大学生 3 名にも参加をしていただきました。

8 月 8 日から 8 月 10 日の派遣期間中は、長崎市の青少年ピースフォーラム（*）に参加し被爆者の体験講話を聞いたり、平和祈念式典への参加を行いました。また、全国 34 の自治体から集まった約 350 名の小・中・高・大学生たちと、平和をテーマにした学習会や意見交換会に参加し、併せて被爆遺構の見学を行いました。

同派遣団は、3 回の事前学習や事後の報告会も含め、様々な平和学習を行いました。

今後、各団員たちは平和について学んだことを、それぞれ家族や友人に伝え活かしていく予定です。

* 青少年ピースフォーラム

全国の青少年と長崎の青少年とが一緒に被爆の実相や平和の尊さについて学び、交流を深めます。同フォーラムでは、長崎市青少年ピースボランティアの高校生や大学生が平和学習を進行したり、被爆建造物等を案内しています。



長崎市長表敬訪問

武蔵野市青少年平和交流派遣団名簿

	氏名	学校名	グループ
1	□内田 寛之 (うちだ ひろゆき)	聖徳学園高等学校 2年	1
2	島田 洋恵 (しまだ ひろえ)	総合芸術高等学校 1年	
3	高林 彩香 (たかばやし さやか)	吉祥女子中学校 2年	
4	生江 健志郎 (なまえ けんしろう)	武蔵野市立第三中学校 1年	
5	□筑波 奈美 (つくば なみ)	吉祥女子高等学校 2年	2
6	澤村 秋 (さわむら あき)	東亜学園高等学校 1年	
7	稲垣 葵 (いながき あおい)	武蔵野市立第四中学校 2年	
8	内田 慎一郎 (うちだ しんいちろう)	東京学芸大学附属小金井中学校 1年	
9	□山本 すみれ (やまもと すみれ)	藤村女子高等学校 2年	3
10	菊地 健太 (きくち けんた)	大成高等学校 1年	
11	塩澤 理紗 (しおざわ りさ)	東京学芸大学附属小金井中学校 1年	
12	八木 詩織 (やぎ しおり)	吉祥女子中学校 3年	
13	○佐藤 文子 (さとう あやこ)	成蹊大学 2年	1
14	○佐藤 慶一 (さとう けいいち)	玉川大学 1年	2
15	○島崎 毅史 (しまざき たけし)	拓殖大学 1年	3

□グループリーダー

○大学生サポーター

随行者：市民協働担当部長 大杉 由加利
市民協働推進課 小林 江梨子
(役職及び部署名は派遣当時のものです。)

* 邑上守正武蔵野市長が、8月8日(水)～9日(木)に同行し、田上富久長崎市長表敬訪問と平和祈念式典に参加、青少年ピースフォーラムを見学しました。

武蔵野市青少年平和交流派遣団 3日間のスケジュール

	8月8日（水曜日）		8月9日（木曜日）		8月10日（金曜日）	
5	5:30	三鷹駅北口集合				
6	6:45	羽田空港着				
7	7:25	羽田空港発【JAL1841便】	7:00	起床	6:30	起床
			7:30	朝食会場集合	7:00	朝食会場集合
8					7:40	荷造り
			8:25	ホテルロビー集合 マイクロバスで城山小学校へ		
9	9:30	長崎空港着 マイクロバスで移動	8:45	ホテルロビー集合 マイクロバスで平和公園へ	9:00	城山小学校着 城山小学校見学
			9:10	平和公園着	9:50	城山小学校発 マイクロバスで山王神社へ移動
10	10:10	昼食会場着	10:35	平和祈念式典開式	10:05	山王神社着 山王神社見学
					10:35	山王神社発 マイクロバスで浦上天主堂へ移動
11	11:00	昼食会場発 マイクロバスで原爆資料館へ移動	11:45	平和祈念式典閉式	11:00	浦上天主堂着
	11:30	長崎市長表敬訪問（原爆資料館内にて）			11:30	浦上天主堂発
12	12:15	原爆落下中心地・平和祈念館見学	12:00	昼食会場着	12:30	昼食会場発
			12:50	昼食会場発	12:40	徒歩で移動 グラバー園着
13	13:30	青少年ピースフォーラム会場（平和会館ホール）着	13:10	青少年ピースフォーラム会場着		グラバー園見学
			13:30	青少年ピースフォーラム参加 *中学生と高校生・大学生で会場が異なります。		
14	14:00	青少年ピースフォーラム参加			14:00	グラバー園出口集合、 マイクロバスで移動
15			15:30	青少年ピースフォーラム（2日目）終了	15:00	長崎空港着
			15:45	原爆資料館見学		
16					16:10	長崎空港発【JAL1852便】
17	17:00	青少年ピースフォーラム（1日目）終了 市電で移動	17:45	原爆資料館出口集合、 マイクロバスで移動		
18	18:00	交流会会場着 交流会参加	18:15	夕食会場着	18:00	羽田空港着 マイクロバスで移動
19	19:30	交流会終了	19:00	夕食会場発 稲佐山展望台見学	21:00	三鷹駅北口着・解散
20	20:00	宿泊ホテル着	19:30	宿泊ホテル着		
21	21:00	ミーティング	21:00	翌日の準備等		
22	22:00	就寝	22:00	就寝		

* 色かけ部分は、青少年ピースフォーラムです。4

武蔵野市青少年平和交流派遣の様子



派遣の様子

文章・写真：佐藤文子（1日目）

稲垣 葵（2、3日目）

派遣1日目 8月8日（水曜日）

- 主な活動
- 長崎市長表敬訪問
 - 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館等見学
 - 青少年ピースフォーラム1日目

【長崎市長表敬訪問】



邑上守正武蔵野市長とともに、長崎市長の田上富久市長に表敬訪問させていただきました。「長崎は町並みが美しく、食べ物もおいしい素晴らしいところなので、ここ長崎では、難しく考えるより色んなことを感じてください。」とおっしゃっていたのが印象的でした。

【追悼平和祈念館等見学】



追悼平和祈念館には追悼の意と平和の祈りを捧げる追悼空間があり、とても気の引き締まる想いがしました。外国人の方も多く目にし、長崎はこのように原爆の悲惨さを語り継いでいるのだと実感しました。

（写真は、原爆落下中心地見学の様子）

【青少年ピースフォーラム1日目】



ピースフォーラムでは被爆講話があり、とても心に響くお話でした。全国の自治体から学生が集まり最初は緊張していましたが、簡単なゲームなどを通し徐々に打ち解けることができ、楽しく交流することができました。

派遣 2 日目 8 月 9 日（木曜日）

- 主な活動 □長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典
□青少年ピースフォーラム 2 日目
□原爆資料館見学

【平和祈念式典】



平和祈念式典では、熱い太陽の下、原爆が投下された 11 時 2 分に参加者全員で黙禱をしました。67 年前の今日、ここに原爆が投下されたのだと実感した瞬間であり、心から世界平和を願いました。武蔵野市内の井の頭自然文化園の彫刻館内に原型がある、北村西望氏による平和祈念像も圧巻でした。

【青少年ピースフォーラム 2 日目】



ピースフォーラム 2 日目は、中学生のグループは平和宣言文の作成、高校生・大学生のグループは、恒久平和実現に向けての意見交換を行いました。生まれ育った地が異なる学生同士、意見もさまざま、とても充実した話し合いとなりました。

【長崎原爆資料館見学】



長崎原爆資料館では、原爆被害の実相を物語る展示が多くあり、原爆の恐ろしさを肌で感じました。原爆投下までの経緯や戦後の核開発競争など、歴史背景もわかりやすく、多くのことを感じ、学ぶことができました。

派遣3日目 8月10日（金曜日）

- 主な活動 □平和ガイドさんの案内による被爆遺構見学（長崎市立城山小学校、山王神社、浦上天主堂）
□グラバー園見学

【長崎市立城山小学校】



爆心地からわずか500メートルの距離にあった小学校です。原爆の投下により1,400余名の児童、31名の教職員、105名の学徒勤労報国隊員が亡くなりました。今でも被爆した校舎やカラズザンショウの木など、被爆の恐ろしさを物語るものがいくつか残っています。平和の大切さを伝える「嘉代子桜」も校庭にあります。



【山王神社】



爆風の影響で一本足になってしまった鳥居があります。きれいに半分になっていました。また、同じく爆風の被害で、クスノキの内部に石や岩が入っていました。どれだけ威力があったのかがわかりました。



【浦上天守堂】



爆心地から 500m の距離にあった教会です。現在はステンドグラスもあり、とてもきれいな建物ですが、原爆時にあったマリア像などには焼け跡もいくつかありました。

【グラバー園】



一番有名なグラバー園住宅は、日本最古の木造西洋風建築です。また、国指定重要文化財にもなっています。

他にも、豊かな国際文化を伝える建物がたくさんありました。

派遣団の活動が紹介されました。

朝日新聞武蔵野版
平成 24 年 8 月 9 日付



青少年
平和交流団
に参加した、



うちだしんいちろう
内田 慎一郎くん
東京学芸大学附属小金井中学校1年生

いながきあおい
稲垣 葵さん
市立第四中学校2年生

なまえけんしろう
生江 健志郎くん
市立第三中学校1年生

座談会

武蔵野市青少年平和交流団の 体験を通して

武蔵野市が非核都市宣言を行って、今年で30周年。

市では、戦争の悲惨さ、平和の大切さを、次代を担う子どもたちに肌で感じてもらうようと、長崎市が主催する「青少年ピースフォーラム」に青少年平和交流団を派遣しました。

中高生による青少年平和交流団12名は、8月8日から10日までの3日間、被爆者の体験講話を聞いたり、資料館の見学などを行い、

また全国から集まった約350名の中高生たちと平和をテーマにした学習や交流会に参加しました。普段はあまり考えることのなかった、戦争と平和について、深く知ることができ、意識を新たにしてきたようです。

―まず、みなさんが青少年
平和交流団の員として、参
加したいと思った理由を教
えてください。

内田 小学生のときに
「平和」についての授業が
あって、そのときに被爆者
の気持ちを考えたんです
けれど、あまりよく分か
らなくて。それで今回、被
爆者の方の話をしっかり
聞きたいと思って参加しま
した。

生江 漫画の「はだしのゲ
ン」を読んだときに、広島
の原爆の惨状にとっても驚
きました。その後、家族で
広島に行つて平和記念資

料館などを訪れたりしたんですが、長
崎の原爆のことは、広島ほど知られて
いないと感じました。だから気になって、
今回長崎の原爆のことを知りたいと思
いました。

稲垣 中学1年生のときに国語の授業
で「おとなになれなかつた弟たちに……」
という戦時中の話を学びました。その
時に戦争って何だろう、平和って何だろ
うと考えたけれど、もっとちゃんと考え
たくて参加しました。

―平和記念館や原爆資料館、戦後67年
経つてもまだ残る原爆の痕跡などを見学
したのですが、どこでしたか。

稲垣 長崎はとてもきれいなまちで、
こんな場所に原爆が投下されたなんて
信じられない感じでした。でもクスノキ
に原爆の爆風で飛んだ石が今も埋まっ

ていたり、資料館には、原爆で皮膚が崩
れた人の写真や、原爆が投下された11
時2分まで止まっている時計があつたりし
て、本当なんだと実感しました。

生江 広島の方が強力だったことを知りま

た原爆の方が強力だったことを知りま



長崎の被爆者・永野悦子
さんの被爆体験を
みんなで聞きました。



深く考えさせられたこと、楽しかったこともあった平和交流団体験

した。だからかどうか分かりませんが、広島よりも長崎の方が、原爆の爪痕が今もたくさんまっしろに残っているように思いました。

内田 原爆による傷が建物に残っていたり、石でできた神社の鳥居が半分吹き飛ばされているのを目の当たりにして驚きました。爆風や熱線がどれほどのものだったのか、想像もできないほどひどかったのだと感じました。

——「青少年ピースフォーラム」はどんな内容でしたか。

生江 まず被爆者の方の体験講話を聞きました。弟と妹が原爆で亡くなったという話を聞いて、自分の家族がもしそうになったらと思うと、とても怖かったです。

「青少年ピースフォーラム」ではみんなで話し合っ
て平和宣言文をつくりました。



爆風で飛んだ石がめりこんだまま残る山王神社のクスノキを見学しました。

内田 「日本がもっと早く終戦を受け入れていたら亡くなる人はもっと少なかった」という言葉が印象的でした。
稲垣 何の予測もなく突然家族が死ぬ、周りの人も大勢死ぬ、というこの怖さ、悲しさを痛いほど感じました。

—— 平和について、全国から来た中高生たちと、さまざまなテーマで話し合ったんですよね。

稲垣 私の班では「相手に思いやりを持つにはどうしたらいいか」を話し合いました。いろんな意見が出た中で「相手の欠点を指摘してあげるのも思いやりだ」という意見が出て、そういう考えもあるんだと印象に残りました。

生江 僕たちの班は「いじめをしないためには」がテーマでした。「人を傷つけない」とか「相手の気持ちを考えて嫌がることはしない」とか意見はさまざまでした。

内田 僕たちは「人権の尊重」がテーマでしたが、やっぱり「思いやりを持つ」「いじめをなくす」といった意見が交わされました。

—— 今回の派遣を終えて、どんな感想を持ちましたか。

稲垣 家族と一緒に普通に生活できることが、どれほど平和で幸せなことかと感じました。これから家族や友達をもっと大切にしたいと思いました。

生江 戦争で家族が同じ目にあつたらと思うと怖かった。原爆1発でこんなことになるのに、今でも核兵器を約1万発も持っている国があることが異常に思えました。

内田 平和祈念式典で被爆者の方々が歌った歌に「もう二度とつくりたくない、私たちが被爆者を」という歌詞があつて胸に残りました。戦争をしてはいけないというメッセージを、僕たちもずっと伝えていきたいと思いました。



長崎から帰宅した後、平和交流団での体験をノートにまとめました。

中学生記者募集!!

あなたも『むさしのライフ A to Z』の中学生記者に挑戦してみませんか。武蔵野市内にまつわる素朴な疑問や知りたいことなどを折り込みハガキに記入して、どんどん応募してください。友達と一緒にの参加も歓迎です。

事前・事後学習について



事前・事後学習について

文章・写真：澤村 秋

結団式 <6月11日>

武蔵野市の平和事業について、団員の役割についての説明を受け、一人ずつ自己紹介をし、派遣で何を学んできたいかを発表しました。また、班に分かれ事前学習課題について話し合いました。



第1回学習会 <6月21日>

講師 牛田 守彦さん（武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会副代表）
島田 喜久恵さん（武蔵野けやき会）



島田 喜久恵さん

牛田さんからは、武蔵野市への空襲を中心に戦争時の様々なお話をお聞きしました。東京大空襲のお話がとても印象深かった事を覚えています。

島田さんからは長崎原爆のお話をお聞きしました。島田さんは小学生のとき、長崎で被爆し、当時のことは「『地獄』のよう」「思い出すのも嫌、話すことも本当は嫌。戦争は二度とすべきではない」と言いました。

この言葉を胸に私達が平和についてもっと考えていきたいと思いました。

第2回学習会 <7月8日>

講師 牛田 守彦さん（武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会副代表）
杉谷 昭夫さん（郷土史研究家・ボランティアガイド）

見学地 □しじゅうから第二公園<西東京市柳沢>
□東伏見稲荷<西東京市東伏見>
□都立武蔵野中央公園・はらっぱむさしの<武蔵野市八幡町>
□都立井の頭自然文化園彫刻館<武蔵野市御殿山>



牛田さんによるしじゅうから第二公園での解説

初めて見たものも多く、自分が住んでいる町の新たな発見がいくつもあったので楽しかったです。戦争の遺品を多くの人達に見てもらい、後世に残していきたいと思いました。

井の頭自然文化園の彫刻館では、ボランティアガイドの杉谷さんから、北村西望氏の平和祈念像の原像についてのお話を聞きました。

被爆クスノキ二世について

はらっぱむさしには、長崎市から譲り受けた被爆クスノキ二世の苗木があります。『武蔵野市平和の日』制定を記念し、市民の木であるハナミズキと共に植樹されました。これらの木は武蔵野市平和の木です。

親の木は、長崎派遣の最終日に見学をしました。



被爆クスノキ二世

第3回学習会 <7月26日>

派遣前の最後の学習会です。

この日は各班、リーダーを中心に、それぞれ事前に調べてきたことを模造紙にまとめ発表しました。各テーマは、1班は『世界の核兵器と廃絶の取り組みについて』2班は『長崎の自然・歴史・文化』3班は『原爆の被害について』です。



解団式 <8月30日>

市長より、青少年ピースフォーラム終了証書を受け取り、各自が長崎で感じたことを発表しました。みなさんおつかれさまでした。



事前学習や派遣中に学んだことをまとめました。

「ナガサキの原子爆弾」

文章：内田 寛之

被爆地 ナガサキ
投下日時 1945年8月9日
名称 ファットマン
原料 プルトニウム
被害者数（現在まで） 約15万人

なぜ被爆地が、ナガサキ？

原爆投下地の選定基準と原爆をアメリカが使用したそもその理由

- ① 原爆の力を調べたい
8月までに空襲を受けていない都市を選ぶ必要があった
- ② 大きな都市地域に存在する重要目標（基地など）である事
- ③ 爆風により効果的に破壊できる地形である事
- ④ 早く負けさせたい
- ⑤ 技術のリードを世界中に見せつける為

上記の理由①②③からアメリカは被爆都市をヒロシマと小倉を予定していたが小倉は、数日前の爆撃による残煙と断雲に目標を遮られ、第二目標のナガサキとなった。当日のナガサキ上空は風が強く、三菱工場の上空を目標にしていたが、少しずれたという話もある。

原子爆弾の威力

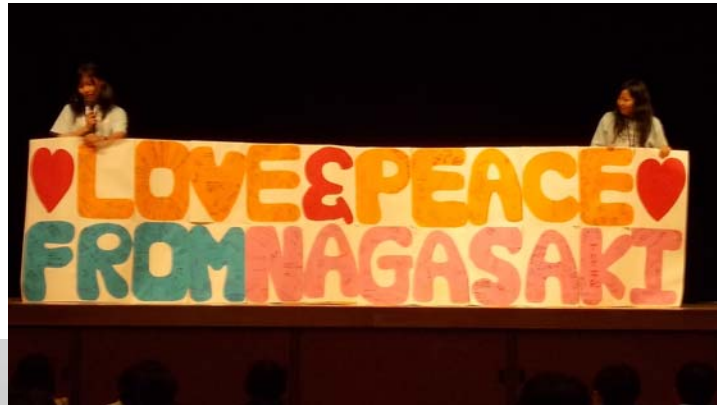
エネルギーの内訳は、爆風 50%、熱線 35%、放射線 15%。地表面温度は爆心地付近で 3000~4000℃、1キロ以内で 1800℃。爆風は爆心地付近で風速（秒速）440m、1キロで 160m

放射線による人体の影響は、被爆直後に現れた急性期の障害と、1946年初頭から現在までに現れた後障害がある。



ナガサキに投下された原子爆弾の模型

武蔵野市青少年平和交流派遣を終えて



被爆地から学んだこと

武蔵野市青少年平和交流派遣団長 大杉 由加利

今年8月、大学生を含む15名の青少年たちと長崎市を訪問しました。派遣団が参加した青少年ピースフォーラムは、長崎市の主催ではありませんが、企画や運営は高校生・大学生が主体である若いスタッフたちによって行われていました。長崎市では、小学生から平和学習を徹底して行い、被爆地に生まれ育ったということの意味を繰り返し考えていく機会を与えられます。同じく被爆地である広島でも同様であることは、グループに分かれての討論で、長崎・広島の学生たちの意識や発言が突出していることから見て取れました。これは、行政や学校が継続して意識啓発をしていくしくみが整っているとともに、各家庭や地域において、原爆の悲痛な実相や被爆の実態を後世に伝え、この悲劇を繰り返してはいけないという一人ひとりの強い思いが受け継がれているからではないでしょうか。

それでも、平和ガイドの方によると長崎市内の原爆の痕跡が年々消えてマンションや店舗に変容しつつあるという話が印象的でした。戦後67年、戦争体験者が年々少なくなり、まちが変わっていくことは、ある程度しかたのないことかもしれません。そんな中、今回の派遣団のような若者たちが、戦争の実相を身近に感じ、それを誰かに伝えたいと考えたことは非常に価値のあることだと感じました。若い彼らがいずれ中核となり、今後の平和な武蔵野市、平和な世界を築いていってくれることを期待しています。



第2回学習会の見学（はらっぱむさしの）

貴重な体験

内田 寛之

私は武蔵野在住、在学の為今回の交流団申込み書を二枚見る事が出来ました。最初は「こんな企画があるんだ！！」程度の感覚しかありませんでした。高校二年生という年令上、クラブ活動、勉強と時間は押していましたが、折角の機会を逃すのも、もったいなく参加させて頂きました。

実際、現地での「ピース・フォーラム」の出席では、日本各地から集結した学生との交流会は、自分自身への中身の濃いものになりました。当たり前になっている「平和」という言葉や、知らない「戦争」という体験について、沢山の若い世代が「知ろう、語っていこう。」と深い認識を持っている事が伺えました。この認識こそが本当に重要な事だと思います。

長崎に出向く前に、戦争に関する書物を何冊も読み、即席の知識ではありましたが、予習を身につけて色々な思いを抱きましたが、やはり現地に行くからこそ感じる空気、生の声が聞けた事も私の財産になりました。

去年は広島平和記念館を訪れ、今年は長崎に行きました。日本は世界で唯一の原子爆弾被爆国です。誰がこの悲惨さを世界中に訴えていくのか。それは私達、日本国に住む人達以外ありえないのです。他には誰もいません。声を大にして訴えていかない事には、沢山の尊い命は救われないのです。「平和」とは何か。一言では語り尽くせない課題にもなりました。

「戦争の悲惨さと、平和の尊さ」を語り継いでいくことが、私達若い世代の義務、権利だという事を、この交流団に参加して確信しました。貴重な体験、機会を授けて頂き、感謝申し上げます。



ピースフォーラムでの発表

平和交流派遣を終えて

島田 洋恵

私は今回この派遣を終えて、若い人達へ平和の大切さ、67年前ここ日本で起きていたことを伝えていかなければと強く感じました。昨年の長崎のピースボランティアの方々との交流、そして今年に入り母校四中での「嘉代子桜」という朗読劇の上演等、平和について考える機会は何度かありましたが、正直私はそこまで考えていませんでした。ですが今回長崎へ行って思いが変わりました。一日目のピースフォーラムでの永野悦子さんの被爆体験講話、永野さんはとてもお年を召されていて話をされるのも大変そうでした。その時私は長崎市の田上市長の話思い出しました。「被爆者の方々がお年を召されて被爆体験講話を行うことが難しくなっている、だから君達の世代が次の世代につないでいかなければならない。君達がバトンを引き継いでいってほしい。」その話が頭の中に残りました。

ですが、私達は戦争を経験していません。戦争を経験していない私達が伝えていくのは難しいと思います。何があったか、何を体験されたのか受け継ぐことはできるとは思いますが、その人の思いを受け継ぎ、伝えていくのは容易ではないでしょう。今後、私達が伝えていくにあたって最大の壁となるはずですが、その壁を乗り越える為に何をしていくべきか考えていきたいと思いました。

そして8月21日に武蔵野プレイスで行われた「嘉代子桜」の上演、小学生からお年寄りまで幅広い年齢層の方々が来てくれました。長崎で見た城山小学校、嘉代子桜、浦上天主堂を思い出しながら演じました。やはり、実物を見てからだと劇に対する気持ちの入れ方も変わり四中で演じたものとは違ったものになりました。見に来てくれた方々からの評判もよく劇もうまくいったので良かったです。見に来てくれた人達が少しでもいいので平和について考えてくれたらと願っています。こういう活動に参加していくことがバトンを引き継いでいく為の第一歩だと思いました。これから先も平和に関する活動があれば参加したいと思います。



8月の夏季平和事業での「嘉代子桜」の上演 22



「嘉代子桜」の前での集合写真

平和交流派遣を終えて

高林 彩香

このたびの武蔵野市青少年平和交流派遣団で派遣されるにあたり、私は多くのことを学びました。その内容は、原子爆弾（核兵器）がいかに恐ろしい被害を及ぼしたか、平和はいかに大切かについてです。

実際に見た原子爆弾による被害は、事前学習で知っていたものよりはるかに衝撃的でした。原爆資料館や浦上天主堂などの現在に残っている被爆の跡を巡り、目で見て感じたからこそ、わかるものだったと思います。そして、その被害の大きさを知ったからこそ、平和についてさらに深く考えることができました。二度とあのような惨劇を起こしてはならないと、強く思います。

私はこれから社会に出るにあたって、今回で学んだことを最大限に生かし、戦争や原子爆弾の非正当性についてを語り継いでいけたらと思います。実際に被爆を経験された方達も、私たちの世代が大人になるころには、もうお亡くなりになっていることでしょう。私たちはその方々に代わって声を上げてゆく必要があります。でなければこの惨劇の存在が忘れ去られてしまうかもしれません。

そして、今回の派遣団に参加したことを決して忘れずに、ここで学んだ数々のことをこれからの自分の人生にも役立てていきたいです。



11時2分で止まった時計



ピースフォーラムでのグループ検討

長崎に行って

生江 健志郎

ぼくは武蔵野青少年平和交流派遣団の団員として長崎へ行き平和を学びました。

様々な平和イベントに参加しましたがその中でも心に残ったところが二つあります。

一つ目は青少年ピースフォーラムです。

日本全国から集まった中高生と平和について語りあい、いろいろな人の平和に対する思いを聞くことができました。また、永野悦子さんの被爆体験講話を聞いて命を大切に、家族を大事にしたいと思いました。

二つ目は原爆落下中心地です。

ぼくはここに 67 年前に原爆が落ちたというのは一瞬信じられませんでした。辺りは建物が建ち、緑があり美しい町だったからです。

ここの辺りは原爆で破壊され 70 数年は草木が生えないだろうといわれていました。しかし、長崎の人々は協力して復興し、あの焼け野原から美しい町並を取り戻したのです。

それを思うとぼくは

「人間ってすごいな。」

と感心します。

ぼくは長崎へ行き戦争の悲惨さ、平和の尊さを知ることができました。ヒロシマ、ナガサキの悲劇を二度とくりかえさないように平和活動や平和イベントに積極的に参加し一人でも多くの人々に原爆の恐ろしさを知ってもらいたいと思います。また、この長崎の体験をいろんな人に伝えていきたいと思っています。



ピースフォーラムでのグループ検討



平和交流派遣を終えて

筑波 奈美

私は今回武蔵野市青少年平和交流派遣団に参加させていただいて、たくさんものを見て、聞いて、学びました。そして、学んだことを周りの人や後世に伝えていかなければならないと強く感じました。私が伝えていきたいことは3つあります。

まず一つ目は、原爆の実相です。一日目のピースフォーラムでは、私たちと同年代の長崎のピースボランティアの人たちがわかりやすく原爆のことについて教えてくれました。今まで学校での授業や、今回の派遣ための事前学習で知っていたこともありましたが、初めて知ることが多くありました。長崎や広島の子供たちはちゃんと知識があるのに、私は東京にすんでいるから知らないというのは、ダメだと思いました。ピースフォーラムのあと原爆資料館に行きました。爆心地の温度は4000度だったと数字で聞いてもまるで想像できませんでしたが、資料館でまっくろに焦げた遺体の写真を見て、4000度の熱さを理解しました。このように、知識を得てから、実際に資料館や遺構などを訪れることが必要なのだと思いました。

二つ目は、被爆者の方の体験談です。ピースフォーラムで聞いた永野悦子さんの体験談は、あまりの悲惨さに涙が止まりませんでした。亡くなった方だけでなく、残された者の精神的な痛みも大きいのだということを感じました。原爆体験者が減ってきている今。被爆者の方々が口を揃えておっしゃる「戦争がなかったならば」という思いを伝えていくのは私たちなのだ、強く使命を感じました。

最後に三つ目は、平和の大切さです。私たちは、戦争を経験したことがありません。戦争に興味がない人もいます。実際私も、戦争の問題は難しいことで、私には関係ないと感じている部分がありました。しかし、ピースボランティアの方々のピースライダーの劇で、平和は身近なところから作られていくのだと、気付かされました。私でも、ピースビームが打てるのだ、と思いました。だから、戦争を知らない私たちが自分自身の問題として、平和を願って行くことが大切だと思います。

私は、将来小学校の先生になるのが目標です。長崎で全国の学生と交流

する中で、長崎や広島では小学校での平和学習が充実しているのに対して、他県の学校は平和について学ぶ機会が少ないことに疑問を感じました。だから、私は、平和の大切さを教えていくことのできる先生になりたいです。

最後に、今回の経験で自分自身がひとまわり成長できたことに感謝して、私の報告を終わります。



長崎市長表敬訪問での代表あいさつ

Peace in the world

澤村 秋

長崎へ派遣に行く前、事前学習として様々なことを学びました。

武蔵野市にある被爆遺構を見て回ったり、被爆者の方のお話や長崎に原爆が落ちた情景など、沢山の事を知り自らの意識を高めていきました。

また、聞く一方ではなく最後の学習会では自分達でそれぞれのテーマを調べ、お互いに発表しあいました。

長崎では表敬訪問に始まり、青少年ピースフォーラム・平和祈念式典への参加など沢山の経験をさせていただきました。

その中でも私が印象深かったのは原爆のことについてです。

原爆資料館のすさまじい写真や遺品。

様々な被爆遺構の見学では今まで写真やグラフ・数字などでしか見たことがなかった原爆の威力やそれによる被害などを感じさせられました。

改めて、原爆の恐ろしさを認識しました。

私達は先日、「嘉代子桜」と言う長崎で今でも語り継がれている物語を朗読しました。

私達が中三の頃に一度朗読したことのある物語なのですが、その頃よりも良いものを市民の皆さんに向けて発信できたのではないかと思います。

長崎の子達との交流で平和について伝えることの大切さなど様々な事を学びました。

私達も武蔵野市から平和について多くのことを発信していきたいと思っています。



ピースフォーラムでの発表



8月の夏季平和事業での「嘉代子桜」の上演

平和交流派遣を終えて

稲垣 葵

長崎県への派遣を終えて私が強く感じたことがあります。それは「二度と戦争が起こってはいけない」ということです。今回の派遣では被爆者の方の話を聞いたり、原爆に関する資料館をいくつか訪れたりしました。そこで戦争がどれほど悲惨なものか分かりました。被爆者の方の話は、本当にこんなことが起こったのか？と感じるような話でした。家族が焼けてなくなっていたり、全身やけどしていたり、川には死体がごろごろと転がっている・・・など想像するだけで、恐ろしいです。また、家族とそんな状態で対面した、被爆者の方の気持ちを考えるとかわいそうで仕方なくなりました。こんな体験を思い出すのは辛いことだと思いの話して下さったので、これからは話を聞いた私達も戦争を知らない人たちに伝えていかないとはいけないのだと思います。また、こんな思いをする人達がこれ以上増えてはいけないと思います。

原爆に関する資料館は、原爆当時のままの建造物の跡や食器、服などが残っていました。また、戦争中の痛ましい写真や映像には目をそむけてしまいました。そこに自分がいたら、どうなっていたのか・・・今の生活をしていると考えられません。今の生活がどれほど平和で幸せなものなのか感じました。この派遣で、世界中が『平和』を強く願わないといけないことを改めて気づかされた気がします。

ですが、このことは世界中の人々がずっと思い続けたいといけません。私達が世界中の人々に直接伝えることは出来ません。でも、それぞれが一人でも多く身近にいる人に話していけば、その輪が広がり、思う人が多くなると思います。だから、私はこの派遣で学んだことをいろいろなところで話していこうと思います。そして、今平和に過ごせていることに感謝して毎日を過ごしていこうと思います。



二度と繰り返さないで

内田 慎一郎

今回長崎へ行き、被爆者の方から話を聞きました。

僕が青少年平和交流団に入ろうと思った理由は、小学校で、国語の時間に「平和」についての授業を受けたからです。内容は、「原爆が投下され、被爆者はどんな気持ちだったか。」を想像で考えることでした。けれども、想像したことが本当かは分かりません。だから、実際に長崎に行き、被爆者から原爆が投下されてどんな様子、気持ちだったのか、直接知りたいたと思いました。

そして実際に行ってみて、原爆での被害はとても広い範囲に及んだと、改めて知りました。爆心地のところは土がなく、大きな被爆クヌノキの中には、爆風により、石が入っていたりしていました。このことを知って、胸が痛みました。又、恐怖も感じられました。本当に沢山の死者が出たと思います。

平和祈念式典で、「もう二度と」の歌の中で、「もう二度と作らないで、被爆者を」という歌詞がありました。やはり、あの悲劇を繰り返したくないという思いがあることが分かりました。他にも、被爆者の話にもあったように、家族が亡くなった時は、悲しすぎて泣くことが出来なかったとおっしゃっていました。そうなってしまった理由には天皇が「戦争を続けよう」と指示をしたこともあったそうです。指示を出す前に、負けを認めれば良かったのに・・・と被爆者は訴えていました。そして、このようなことが、今後二度と起きてはならないと強く思いました。そのために、僕達には何が出来るのか、考えました。僕にはまだはっきりとした答えは、見つかりませんが、これからも長崎で見聞きしたことを忘れず、友達や家族と一緒に考えて行きたいです。そして、僕なりの答えを見つけて、次世代へ伝えていきたいです。



研修を終えて

山本 すみれ

三日間、私は武蔵野市青少年平和交流派遣団として長崎に行き、核兵器の恐ろしさ、恒久平和の必要性を強く体感しました。多くの原爆に関わる場所に行き、そこであった悲惨な状況を見聞きました。

その中で一番印象に残ったのは、原爆資料館で見た原爆被害の映像や写真です。東京でも広島や長崎の原爆被害を資料などを通して知っていましたが、そこで見た原爆犠牲者たちの直視できない姿にとても胸が痛みました。「これが人間なのか」多くの人の変わり果てた姿にこう思わずにはいられませんでした。そして、原爆の恐ろしさ、戦争に対する怒りがこみあげてきました。以来、私は戦争のない世界はどうすれば実現できるのだろうか、より真剣に考えるようになりました。

原爆資料館に行く前に、各地の学生と平和について考える時間があり、そのときのテーマが、「核兵器をなくすためにはどうしたらよいか」というものでした。「自分が世界のトップになって、核兵器をなくす」「幼い頃から核兵器はあってはならないものだ」と教育する」など様々な意見がでました。皆、真剣に考えていることが伝わってきて、どれも良いものでした。私は、異なる環境で育ち、学んできた人々が平和を真剣に考え、意見を出し合い、それを実現しようとする姿に心から感動しました。こういったことが、広島や長崎だけ、しかも原爆が投下された日だけでなく、世界中で日常的に行われるようになっていけば、皆の平和に対する意識がもっと高まると思いました。

今私は、誰もが簡単に平和について考えられる機会を作れば、戦争をなくすことができると考えています。今後、私が平和活動に参加していくなかで、この意見を実現できるよう頑張ります。歴史は繰り返すといいますが、二度とこの恐ろしい戦争を繰り返さないためにも、犠牲者の思いを胸に今を生きていきます。



ピースフォーラムでのグループ検討

平和交流派遣を終えて

菊地 健太

私は長崎で様々な貴重な経験をしました。その中でも特に印象に残った物が二つあります。

一つ目は平和祈念式典です。

今までニュースや新聞などでしか見ることができなかつたものなので本当に行くことができてよかったです。

会場では厳かな空気の中で式典が行われとても多くの方が参列していました。被爆者の方のスピーチもとても印象に残りました。

二つ目は青少年ピースフォーラムです。

私は今までも様々な平和活動をしていましたが、なかなか同世代の人たちと戦争や平和について話しあう機会がなかつたので良い経験になりました。

自分自身余り積極的に話すことができなかつたのですが、周りの人たちに「君はどう思う？」などと話しかけてもらい自分の意見を口にすることができました。

その話しあいの場で「平和の大切さを多くの人に知ってもらうことが大切だ」という意見がありました。

私はこの意見がとても重要なことだと思いました。

こういった話しあいの場で自分たちだけが平和の大切さを知るより多くの方が知った方がよっぽど価値があると思うからです。

私はこの意見を元にもっと多くの人に平和の大切さを知ってもらえる活動をしようと思いました。



8月の夏季平和事業での絵本の読み聞かせ

長崎平和交流派遣団に参加して

塩澤 理紗

私は今回、平和交流派遣団に参加させて頂きましたが、まず興味を持ったのは、『平和とは何か』という事でした。

ピースフォーラムでは、他の都道府県の人達と交流して平和について考えました。『平和でない時』はどういう事を考えていた時、ふいにシリアなどでは今でも戦争が続いているという事を思い出しました。最近でも、シリアで日本人ジャーナリストが戦争に巻き込まれて死亡するという事件があり、改めて戦争のない平和な世界にするにはどうすればいいのかを考えさせられました。

次に関心を持ったのは、長崎平和祈念式典についてです。この式典は毎年当たり前のようにNHKで放送されていますが、いつからやっているのかという事が知りたくなりました。

9日の式典が終わった後、原爆資料館に行き年表をたどっていると、平和式典と同じようなものを終戦から早くも10年以内に行っていて、正式に『平和式典』と決まったのもそれから約5年後だということがわかりました。終戦してからまだ完全に復興していない頃から、戦争で亡くなった人々の事を思い、二度と戦争が起こらないように願い続け、今でもその式典が残っているという事は、平和な世界に少しずつ近づいていく為に意味のある素晴らしいことなのだと思います。

長崎に行く前は、戦争の事を知る手掛かりは本やテレビの他に祖父母の話しかありませんでした。しかし、今回長崎に行ってみて、戦争は二度と起こってほしくないとても恐ろしいことで、それを経験した人々は1日1分1秒でも早く戦争の無い平和な世の中になってほしいと強く願っているという事がわかりました。実際に戦争を経験した方はもうお年寄りの方ばかりなので、これからは私達若い世代がその方たちの経験したことを次世代に引き継いで行くにはどうしたら良いかを考えていかなければならないと感じました。今はまだ中学生ですが、もっと広い分野で今回経験したことを伝えていきたいと思います。



平和交流派遣を終えて

八木 詩織

毎年8月9日にテレビで放映されている平和祈念式典に参列できたことは、私にとって大変意義のあるものになりました。まず、式典の司会、献水や献水の水の採水を小、中、高校生が担当していることに驚きました。東京より平和への関心が、街全体として高く、特に戦争を体験していない学生にまで高く、式典の多くの場面で、活躍していることに感心しました。

また、長崎市議会議長の式辞に「長崎では小学生や中学生の子どもたちが、年老いた被爆者が語る被爆体験に耳を傾け、平和について学び、核兵器の恐ろしさと平和の大切さを心に刻んでいます。高校生は平和大使として世界に向けた核兵器廃絶運動に若い力を注いでいます。」とあるので、街をあげての平和教育が盛んだということが伝わってきました。私たちがまた67年前の日本で何が起きたかを考え、平和であることの大切さをいつまでも心に持ち続けなくてはならないと思います。

ピースフォーラムでは、被爆体験を話してくださった方がいますが、私たちが大人になる頃には、戦争体験をされた方々は、亡くなられてしまうので、直接、お話を聞くことができた私たちが、次の世代に語り継ぐ大切さも感じました。

世界には未だに19000発もの核兵器が存在しており北朝鮮、イランの核兵器開発の動きが国際関係の緊張を高めているので、核兵器のない世界を望む私たちの声を世界に届けていくことが大切だと思いました。



ピースフォーラムでの発表

「みんなで、少しずつ」

佐藤 文子

私は今回長崎に行かせていただき、たくさんを感じました。長崎市の田上市長を表敬訪問した際、「難しく考えるよりも、この長崎で、まず感じてください。」とお話しをしていただきましたが、まさにその通りでした。

昨年福島原発の事故が起き、果たして核の平和利用なんてあるのだろうか、と考えてきましたが、長崎で色々なものを見聞きし、核の脅威は他の様々な問題とは比べ物にならない、レベルの違う話だと再認識しました。日本以外のどの国でも、もう決して原爆によって苦しむ人を見たくない、と心から思いました。日本に原爆が投下されて以来、世界で核開発競争が行われ、今も私たちはその脅威にさらされています。福島原発の事故は、私たちに改めて核の恐ろしさを考えさせる、警鐘だったのではないかと思います。

またピースフォーラムでは、全国の同世代の方と平和について話し合うことができ、とても有意義な時間となりました。長崎出身の大学生が「小学生のときは毎年被爆講話があった。」「大学生になり他県に出てみれば、他県の方は原爆が投下された日も知らなくて驚いた。」とおっしゃっていて、長崎や広島の子供と、他県の学生の意識の間に大きな差があることを知り、関東で育った私もショックを受けました。話し合いでは、出会う先生や通った学校の方針によっても大きな違いがある、という意見が多く上がりました。では本当に日本のみんなが平和を思い続けていくためにはどうすればいいのだろう、と考えたときに、私は家庭で親が子供にしっかりと話をすることが大事だと思いました。なので、より多くの人に平和について考えていただくきっかけとなるために、どんなに小さな平和イベントや平和活動なども、一つ一つを大事に行っていきたいと思いました。そうした小さな積み重ねが平和な未来へつながると信じています。私は今回の長崎派遣で関心を持ったことを大学で勉強し、将来子供を持ったときにちゃんと話したいと思います。また今回一緒に長崎に行った中高生たちが、これからどんな風に行動に移していくのか、とても楽しみです。このような経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



武蔵野市長崎派遣事業に参加して

佐藤 慶一

今回私は中・高生の子供たちのサポーターという形で参加させていただきましたが、私自身も大変有意義な体験をすることができました。

私は、今まで「平和」なんて、当たり前のことだと思っていました。ご飯が食べられ、雨風をしのぐ家もあり、家族と一緒に暮し、友達と笑いながら毎日を過ごす。そういったことは、誰にでも与えられている権利であると思っていました。しかし、戦時中は当たり前のようにその権利が奪われ、恐怖の中1日1日を生きていくという話を聴き、改めて「平和」に関して考えさせられました。平和について日本全国の学生が集まって、意見を交換する時間が設けられていたのでたくさんの人たちの話を聞くことができました。なかでも、印象に残ったのが、同じ日本でも「平和」に関する考え方が全然違うということです。原爆が投下された長崎、広島、日本で唯一地上戦が行われた沖縄は、学生の間は毎年必ず「平和に関する取組」というものが行われているらしく、記念館に行ったり体験者の方の話を聴いたり、発表会をしたりと多くの時間をとっているそうです。私は東京出身ですが、学校で行った「平和に関する取組」で覚えていることは、ほとんどありませんでした。教科書を開いても、8月6日に広島に、9日には長崎に原爆が投下された、という程度の情報しかないので、ただの丸暗記になってしまっているのが現状です。私も含めて、第2次大戦について詳細に話すことができる大人というのはあまりおらず、戦争体験者の方々も年々、減ってきています。

私は今まで「戦争」や「原爆」というのはどこか自分とは遠い、関係のない話だと、長い間考えていましたが、今回の長崎派遣事業に参加して、実は今を生きる私たちにも深くかかわりのあることであり、これから先に生まれてくる子供たちのためにも、戦争を知らない私たちが学び、伝えることが必要なのだと思いました。被爆した人々は今も苦しみと戦っています。世界では今、この瞬間も戦争により罪もない人々の命が消えています。長崎から帰ってきて、今回の派遣事業が終わったのではなく、ここから各々ができる新たな出発を、と思いながら今の自分にできることを少しでも実践して、より多くの人たちに伝えていきたいと思います。



クマゼミから始まった三日間

島崎 毅史

僕が長崎に着いて最初に気付いたことは自分が聞いたことのないセミの鳴き声でした。僕はこの鳴き声の主がクマゼミだということがわかりました。僕の父は出身が九州なのでよくクマゼミの話を知っていました。「百聞は一見にしかず」と思いました。これが僕の長崎の第一印象です。

二日目の意見交換会では、各県の学生の代表の人達と話し合いを行いました。僕にはいくら実際にあったこととはいえ、生々しいものやグロテスクに感じるものを写真などでアピールする方法は好きではないという自論がありましたが、平和や戦争の悲惨さをどのような形で伝えればよいのかというところまでは考えが及んでいないことに気づきました。

意見交換会の終わりに会を指揮されていた方の発言の中で、「平和事業は堅苦しい話になってしまうけれど、間口は広い方が良い。入り口が広がったら色々な人が来て堅苦しい話ばかりではなくなるから」という言葉が印象に残っています。自分自身、平和についてまだ明確な考えがなかったため、意見交換会では意見を上手く伝えることができず悔しい思いをしました。しかし、「百聞は一見にしかず」のとおり長崎で見聞きしたことや体験したことで、多くのことを学ぶことができました。

今回の派遣研修で学んだことを糧に今後自分でできることを探していきたいと思います。



ピースフォーラムでのグループ検討



みなさん、おつかれさまでした。



<参考> 第3回学習会発表資料

第1班『世界の核兵器と廃絶の取り組みについて』

世界の核兵器と廃絶の取り組み

① 日本の核兵器廃絶への取り組み

- 『核兵器廃絶平和都市宣言』
- 『日本非核宣言自治体協議会』
- 『平和市長会議』

② 世界の核兵器廃絶運動

条約

- ① 部分的核実験禁止条約
- ② 核兵器拡散防止条約
核兵器を有するのはなぜ? ⇒ 「核の抑止力」のため?
- ③ 中距離核戦力全廃条約
- ④ 包括的核実験禁止条約 ⇒ 未発効

宣言 2009年4月5日 プラハ



「核のない世界」= オバマ大統領 = ノーベル平和賞

まとめ

* 保有国: アメリカ ロシア 英国 フランス 中国
インド パキスタン

* 保有・疑い: イスラエル 北朝鮮 イラン

* 開発・疑い: シリア ミャンマー



核の平和利用とは？

原子力発電

これは今一つの課題ではあるが平和利用とする

基本的な仕組み

巨大なお釜の中でウランなどを核分裂させる

↓

その時発生する熱量で水を蒸騰させて蒸気をつくる

↓

その蒸気を発電機につなぐ、た巨大なタービンに吹きつけ
発電機を回す

レントゲン

レントゲンは人の体内の骨などを発見する

レントゲンの発明者はゲオルク・ルンムニレントゲン(1845~1923)

1895年にX線(放射線)を発見し、ノーベル賞を受賞

レントゲンのしくみ

入線は物質を透過する性質をもつ

↓

レントゲンはフィルムはX線があると感光する

↓

現像すれば黒くなる

↓

しかし骨はX線には吸収されず

NAGASAKI



人口 1406,076人 (2012年)



面積 4,104 km²

海岸線の長さ 4,203 km

全国2位!

気候

1年の平均気温 16~17°C

1年の降水量 2000ミリ

海流の影響で比較的涼しい。
梅雨は大雨。8~9月は台風。

平和活動

平和推進事業, 青少年の活動

記念行事, ポスター・標語展

など。

五島列島



伝統工芸品

- 長崎青貝細工
- 長崎刺しゅう
- 陶芸
- ペーパークラフト
- 鬼瓦
- 長崎ちゃんぽん



豚肉 魚介類 野菜
具とした郷土料理
明治時代 中国人
とされる。

海外交易の歴史



1634年 出島建設

↳ 中国オランダと貿易

1803 1804

1803

1804

アメリカ船が来航

ロシア使節が来航



1844

1853

オランダ国王から手紙が届く

開国

1604年~1635 朱印船貿易

渡航回数が
356回となった



名産品

品 ☆ 水産品 ☆ 農産品 ☆ 料理 加工食品 ☆

真珠
マグロ

ジャガイモ
長崎牛
どんこ

カステラ
島原手延そうめん
五島うどん
川内かまぼこ
皿うどん

からすけ
再煮まんじゅう
かすまき
長崎焼酎
大兵衛
大村寿司

まん

・茂木びわ

野菜を
上料理
中国人が伝えた

江戸時代 長崎人の
女性が唐
びわを種子
をまいたのが
はじまり



長崎ビートロ

ビートロ = ポルトガル語の
熱い酒を冷たいガラスをパイプの先に付け
シャボン玉をくくらます酒器の形をつくる



第3班『原爆の被害について』

原爆の被害

○長崎に原爆が投下されるまでの経過

1931年11月「人工エネルギー」が発見された
 同年9月に「第一日」世界大戦が開始されたこととアメリカは原爆の開発を開始した
 原爆は戦争の終結を早らせるためにドイツに渡し使用することを目的に開発された
 しかし1945年5月8日にドイツが降伏しヨーロッパでの戦争は終結した
 それまで日本への使用も検討されておりましたが問題になっていた
 だが当日の国際情勢的な要素が勢力を巧みにつなげたことで長崎に原爆を投下し
 日本に原爆を投下することを決定された

○原爆の物的被害

〈被害建物について〉

建物名	被害状況
旧長崎利路所 浦上刑務所跡	0.25 (0.0)
坂山小学校 被爆校舎	0.5
長崎大学ゲストハウス	0.5
長崎大学医学部裏門内柱	0.6
山王神社 二の鳥居	0.8
三菱重工長崎造船所 船体工場	1.6
三菱兵器仕立工場	2.3
中町教会	2.6
丘山防空壕	2.7
上長崎小学校 校舎	2.8
長崎大学経済学部 増林会館	2.8
長崎県庁第二別館	3.3
三菱重工長崎造船所 資料倉庫	3.5
門川小学校 被爆校舎	5.8

○ 原爆による人的被害とは

どのようなものだったか？

当時の長崎市の人口24万人中死者7万5千人、負傷者は7万5千人。
具体的に熱線による被害、爆風による被害、火炎による被害の
3つに分けることができる。

(i) 熱線による被害・重傷になると表皮がはがれ落ち、骨や
皮下組織が露出するほどに。

(ii) 爆風による被害・人口が爆風により飛ばされ、
散弾のような無数のガラス・木片を浴びることになる。

(iii) 火炎による被害・倒れた家の下じきになった
上に炎が燃え移り、死に至るケースが特に深刻。

○ 広島原爆と長崎原爆の違い

	広島	長崎
原料	ウラン	プルトニウム
発射機	リトルボーイ	ファットマン
当時の人口	約350000人	約210000人
死者数	約140000人	約74000人
負傷者数	約77000人	約75000人
消失面積	13.2平方km	6.7平方km

武蔵野市青少年平和交流派遣団の活動報告書をまとめるにあたり、それぞれの団員の感じたことや想いが伝わるよう、話し合いを重ねながら、時間をかけて取り組んできました。

事前学習で学んだことや長崎で体験したこと、多くの人との出会いや、団員それぞれが感じたことを、今の自分たちの素直な言葉で綴っていると思います。将来、何らかの形で平和への取り組みに参加していく際に、この報告書を読み返して、平和への想いを新たにしていだけたらと願っています。

今回の派遣団には、3人の大学生にもサポーターとして参加してもらいましたが、中高生の団員の良き先輩、良き相談相手として活躍してくれました。心より感謝いたします。

また、受け入れてくださった長崎市の皆様をはじめ、派遣団にお申し込みいただいた多くの皆様や、当事業を実施するにあたってお世話になった皆様に、心よりお礼申し上げます。

武蔵野市青少年平和交流派遣団
活動報告書

編集担当

内田 寛之、澤村 秋、稲垣 葵、佐藤 文子

発行 平成 24 年 11 月

武蔵野市 市民部 市民活動推進課
武蔵野市緑町2丁目2番28号
電話(0422)60-1829(直通)

NO!原爆 NO!戦争



世界中が笑顔に、

平和な世界になります様に